

## II E - 1

脳波上 pseudopetit mal pattern を呈した  
児の臨床的検討

東邦大学第1小児科学教室

○松尾多希子, 諸岡啓一, 有本潔,  
多田博史, 高木一江, 稲田悦子

乳幼児期から学童前半期の入眠期に出現する棘波成分を伴った slow wave burst はいくつかの名称で呼ばれているが, Gibbs & Gibbs は pseudopetit mal pattern とした。これは痙攣発作波と類似しており, 鑑別上問題となる。我々は脳波記録にて drowsy state に棘波を伴った徐波の出現した脳波を検討し, drowsy state のみに出現した波形は, drowsy state 以外にも出現した波形とは, 次の点で形態上鑑別でき, pseudopetit mal (以下 PPM) であると考えた。鑑別点は, 1) 棘波の各誘導における同期性が少ない, 2) 棘波の出現部位の不規則性がある, 3) 棘徐波の結合が不良で規則性が少ない, 4) 棘波の振幅, などの点である。今回我々は, PPM と判定した波形をもつ児について, その後の経過を観察したので, 報告する。

PPM と判断した 51 例の症例の診断名は熱性痙攣 23 名, てんかん 23 名, 周期性嘔吐症 3 例, 髄膜炎 1 例, 外傷後痙攣 1 例であり年齢は 3 歳~12 歳であった。51 例のうち, 現在までの臨床症状の経過を確認できたものは 28 例であった。経過追跡の期間は最短 2 年, 最長 5 年 6 ヶ月であった。これらの症例の内訳は熱性痙攣 10 例, てんかん 16 例, 髄膜炎 1 例, 外傷後痙攣 1 例であった。このうち最終観察時点において抗痙攣剤を服薬中のものは 17 例であった。痙攣は最終観察時点において痙攣は全例に認められなかった。

このことから脳波上 PPM を有した児の基礎疾患は様でなく, 痙攣を有する場合も予後不良因子とはならないことが示唆された。このように今回の検討では波形と睡眠段階を基準に定義された PPM は痙攣性疾患との直接的関連はないと考えられたが, その病態生理学的意義は未だ不明確であり, このような明確な定義を用いることがその解明に重要であると思われた。今後は症例を増やして検討し, また, PPM についての経時的変化についても検討を行いたい。

## II E - 2

中心部・側頭部に焦点を有するてんかんに  
ついて

東邦大学第一小児科

○稲田悦子 諸岡啓一 有本 潔  
多田博史 松尾多希子 高木一江

Benign epilepsy of children with centrotemporal foci (以下 BECCT と略) はすでに知られている。今回私たちは, BECCT を含め, 中心部または側頭部に発作波の見られた症例 (39 例) について, 臨床症状, 脳波所見などを検討した。

[結果] 1) 臨床発作が睡眠中, 2) 発作波が睡眠で増加する, という特徴をもつてんかん 19 例を I 群, 1) 2) のどちらか一方のあるてんかん 12 例を II 群とした。これらは全例器質的異常がなかった。1) 2) のいずれもない症例は器質的異常がないてんかん 2 例 (III 群), 器質的異常のあるてんかん 4 例 (IV 群), 熱性痙攣 3 例 (V 群) に分類した。IV 群は, 急性小児片麻痺 2 例, Reye 症候群後 1 例, 脳性麻痺 1 例であった。V 群熱性痙攣のうち 2 例は, 臨床発作が睡眠中にあり, 発作波も睡眠で増加していた。

発症年齢の平均は, I 群と II 群で 6 歳前後と類似し, IV 群では 2 歳 2 ヶ月と低かった。

発作型では, I 群では 10 例に複雑部分発作に続いて全般けいれんに進展する発作がみられた。また, 全般性強直間代けいれんは 9 例にみられた。II 群では, 複雑部分発作 8 例 (うち全般化 4 例), 全般性強直間代けいれんは 3 例に認められた。III 群は複雑部分発作 2 例, IV 群は, 複雑部分発作 2 例, 単純部分発作 2 例であった。

発作コントロールは, 1 年以内に消失した者を良好, 1 年以上持続している者を不良とすると, I 群は良好 15 例, II 群は良好 7 例, III 群は不良のみ 4 例, IV 群は良好 4 例であった。

[考察] I 群は典型的 BECCT と考えられ, 予後良好なものが多く, 発作型では二次性全般化を伴う複雑部分発作が多かった。II 群は I 群と類似するが, 予後不良なものもみられた。III, IV 群のてんかんは, BECCT と異なったものであった。

以上, 中心部・側頭部に焦点を有するてんかんにはいくつかの疾患群があると考えられた。